

第 12 回日本オオサンショウウオの会 宇陀大会報告書



平成 27 年 10 月 3 日（土）～ 4 日（日）

奈良県宇陀市

日本オオサンショウウオの会

目 次

大会プログラム	・ ・ ・ 2
日本オオサンショウウオの会 総会資料	・ ・ ・ 3
基調講演「宇陀 室生川（木津川水系）のオオサンショウウオ」	・ ・ ・ 5
各地からの活動報告（目次）	・ ・ ・ 6
附載 「室生川オオサンショウウオ親子夜間観察会に参加して」	・ ・ ・ 28
大会のようす	・ ・ ・ 29



《会場》宇陀市室生振興センター



【大会プログラム】

10月3日（土）

日本オオサンショウウオの会 総会

13:00～13:05 挨拶 会長 桑原一司

13:05～13:30 総会議事

次期大会開催地 挨拶



ご来賓

第12回日本オオサンショウウオの会 宇陀大会

13:30～13:45 挨拶 宇陀大会実行委員会 会長 福田裕光

開催地歓迎挨拶 宇陀市長 竹内幹郎様

来賓挨拶 文化庁文化財調査官 江戸謙顕様

奈良県教育委員会事務局 文化財保存課長 尾登政司様

奈良県宇陀土木事務所長 上村良則様

13:45～14:20 基調講演

第12回日本オオサンショウウオの会宇陀大会実行委員会 清水善吉

14:20～14:30 <休憩>

14:30～16:30 活動報告（報告番号1～8）

16:30～17:15 移動（宇陀市室生振興センター → 保養センター美榛苑）

17:15～19:30 夕食・懇親会

19:30～20:00 移動（保養センター美榛苑 → 室生川 もみじ公園）

20:00～22:00 夜間観察会（室生川）

22:00～22:30 移動 →（室生川 もみじ公園 → 保養センター美榛苑）

22:30～ 自由時間

10月4日（日）

8:00 ～ 8:30 移動（保養センター美榛苑 → 宇陀市室生振興センター）

8:30 ～11:30 活動報告（報告番号9～21）

<6 報告終了後、休憩 10 分>

11:30～ 11:50 現地交流会

市指定無形文化財「室生の獅子舞」の公園

11:50～ 12:30 昼食

<解散>

12:30～ 13:20 「オオサンショウウオ取扱いマニュアル」説明会（希望者のみ）

13:20～ 16:00 地域見学（希望者のみ）

1. 日本サンショウウオセンター 三重県名張市赤目町・安部田
名張市郷土資料館（旧錦生小学校）

2. 橿原市昆虫館 奈良県橿原市南山町

平成 27 年度 第 12 回日本オオサンショウウオの会 総会資料

平成 27 年 10 月 3 日

奈良県宇陀大会（宇陀市室生振興センター）

1 会長挨拶

2 事務局からの報告

(1) 会員登録状況

特別会員 1 名（文化庁）、個人会員 124 名、団体会員 13 団体

(2) 活動状況

- ① 第 11 回日本オオサンショウウオの会東広島大会の開催
（平成 26 年 9 月 27 日、28 日）
- ② 第 12 回日本オオサンショウウオの会宇陀大会の開催のための調整
- ③ 第 13 回、14 回大会開催地の調整
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 「オオサンショウウオ取り扱いマニュアル」案の検討

(3) 会計報告 資料-1

(4) 会計監査報告

3 議事

(1) 平成 27 年度事業計画

- ① 第 12 回日本オオサンショウウオの会宇陀大会の開催
（平成 27 年 10 月 3 日、4 日）
- ② 第 11 回大会・第 12 回大会の報告書作成と送付
- ③ 第 13 回日本オオサンショウウオの会の調整（平成 28 年開催）
- ④ ホームページの運営
- ⑤ その他会務に必要な事業

(2) 次期開催地選出

- ① 次期開催地：島根県邑南町（平成 28 年・第 13 回大会）
- ② 次々期開催地：鳥取県南部町（平成 29 年・第 14 回大会）

(3) その他の議題

- ① 「オオサンショウウオ取り扱いマニュアル（案）」について

日本オオサンショウウオの会 平成26年度会計報告

(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

収入の部

費目と項目	金額
会費収入	
現金会費	84,000
銀行口座振込	5,000
郵便振替口座	25,000
預金利息	88
合計	114,088

支出の部

費目と項目	金額
大会補助金	30,000
ホームページ維持費	20,421
振り込み手数料	260
運送費	1,188
通信費	634
事務消耗品	4,850
合計	57,353

平成26年度収支	56,735
----------	--------

前年度繰越金	632,756
--------	---------

次年度繰越金	689,491
--------	---------

日本オオサンショウウオの会 平成26年度会計監査報告

上記の会計報告について監査した結果、相違ないことを報告します。

平成27年9月21日

日本オオサンショウウオの会

監事

清水 邦



監事

清水 善



【基調講演】

宇陀 室生川（木津川水系）のオオサンショウウオ

第12回日本オオサンショウウオの会
宇陀大会実行委員会 清水 善吉

オオサンショウウオは両棲綱有尾目オオサンショウウオ科に属し、世界最大の両棲類あるいは生きた化石として知られている。また、文化財保護法の「日本固有の動物で著名なもののうち、学術上貴重で、我が国の自然を記念するもの」として1951（昭和26）年に天然記念物に指定され、翌年には「天然記念物のうち世界的に又国家的に価値が高いもの」として特別天然記念物に格上げされている。なお、特別天然記念物にはカモシカやイリオモテヤマネコ、トキ、ライチョウなど11種が指定されているが、両棲類はオオサンショウウオのみである。

このように日本を代表する貴重な動物ではあるが、奈良県における生息状況はほとんど調べられておらず、県民の認知度は高いとはいいがたい。そのような中で、奈良県教育委員会は「特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針2012」を策定し、2013年度から生息状況の把握や保全対策を実施している。

生息状況については、木津川上流域にある宇陀市および曽爾村、御杖村の1市2村において188個体のオオサンショウウオが登録されている。とくに、宇陀市室生川では全登録数の64%にあたる120個体が登録されており、奈良県におけるオオサンショウウオの中心的な生息地となっている。

しかしながら、生息が下流域に限定されていることやチュウゴクオオサンショウウオとの交雑個体の侵入など、室生川においても課題は少なくない。前者については、井堰等の改修時には遡上可能なスロープの設置が宇陀土木事務所により進められており、継続することにより将来的には上流域にもオオサンショウウオが生息することが期待される。また、交雑個体については、宇陀市と奈良県教育委員会が共同して捕獲調査を続けているが、息の長い取り組みが必要になってくると思われるので、調査体制を整備していく必要もある。

このように、木津川上流域の河川における生息状況は少しずつ明らかになってきているが、木津川水系以外の河川における情報は極めて少なく、個体登録がされているのは、2012年8月に御所市の曾我川水系の用水路で保護された1個体だけである。この個体は、曾我川由来であるのか確認できなかったため放流を見合わせ、橿原市昆虫館で保護飼育されている。大和川水系である曾我川については、文献をみると複数の個体が過去に確認されていることから、生息地である可能性があり、精査する価値のある河川である。

現在、橿原市昆虫館により奈良県内のオオサンショウウオの分布調査が行われており、数年後にはその成果が公表されるものと思われる。

《各地からの活動報告》目次

10月3日(土)

- | | |
|--|--------|
| 1 The 7th Hellbender Symposium の参加報告
田口勇輝(広島市安佐動物公園) | ・・・ 7 |
| 2 ペンシルベニア州中央部におけるヘルペンダーの環境 DNA 季節変化
高橋瑞樹(Bucknell University) | ・・・ 8 |
| 3 オオサンショウウオの消滅に関する最近の問題
桑原一司(日本オオサンショウウオの会) | ・・・ 9 |
| 4 2015 年 NPO 法人伊賀・水と緑の会活動報告
浜田不二子(NPO 法人伊賀・水と緑の会) | ・・・ 10 |
| 5 鳥取県南部町におけるオオサンショウウオ関係企画の記録と今後について
桐原健志(南部町立西伯小学校 6年) | ・・・ 11 |
| 6 飼育下におけるオオサンショウウオ3世連続繁殖について
伊東明洋(瑞穂ハンザケ自然館) | ・・・ 12 |
| 7 動物園飼育下オオサンショウウオの健康管理に主眼を置いた寄生虫検査
田中祥菜・田口勇輝・野々上範之・野田亜矢子・浅川満彦 | ・・・ 13 |
| 8 大阪府能勢町天王におけるオオサンショウウオの生息調査
栗栖和道(天王プロジェクト) | ・・・ 14 |

10月4日(日)

- | | |
|---|--------|
| 9 大分県宇佐市におけるオオサンショウウオの取り組みについて
竹村雄太・森本星史(宇佐市教育委員会) | ・・・ 15 |
| 10 高知県のオオサンショウウオについて
吉川貴臣(わんぱーくこうちアニマルランド)他 | ・・・ 16 |
| 11 山口県宇佐川のオオサンショウウオ(6)
野村舞穂・埜本 萌・冷泉きらら 他(高川学園中学・高等学校 科学部) | ・・・ 17 |
| 12 岩国市宇佐川におけるオオサンショウウオ保護の取り組みについて
広兼 健(岩国市教育委員会) | ・・・ 18 |
| 13 東広島市椋梨川におけるオオサンショウウオ幼生の離散～他水系への流出確認～
清水則雄 他(広島大学総合博物館) | ・・・ 19 |
| 14 鳥取県日南町大宮地区におけるオオサンショウウオの生息状況
吉田博一(日南町役場) | ・・・ 20 |
| 15 おかやまオオサンショウウオの会湯原地区の活動報告
浜子尊行・伴野良子(岡山オオサンショウウオの会) | ・・・ 21 |
| 16 兵庫県市川で観察されたオオサンショウウオの10月産卵
岡田 純(NPO 法人 日本ハンザキ研究所) | ・・・ 22 |
| 17 京都・嵐山周辺における日本産オオサンショウウオの生息状況
見澤康充・松井正文・西川完途・福家雅哉 | ・・・ 23 |
| 18 京都市産のオオサンショウウオの現状－2014年秋から2015年夏までのまとめ－
西川完途・松井正文・江頭幸士郎・吉川夏彦 | ・・・ 24 |
| 19 奈良県宇陀土木事務所におけるオオサンショウウオ保全の取り組み
浅井健太(奈良県宇陀土木事務所) | ・・・ 25 |
| 20 奈良県内の大和川水系、吉野川水系におけるオオサンショウウオの生息分布調査について
中谷康弘・島田正吾・佐野大・松本清二(橿原市昆虫館) | ・・・ 26 |
| 21 奈良県宇陀市におけるオオサンショウウオ調査等の取り組みについて
薄木康裕・柳澤一宏(宇陀市教育委員会) | ・・・ 27 |
| ＜附載＞ 室生川オオサンショウウオ親子夜間観察会に参加して
観察会参加者 | ・・・ 28 |

The 7th Hellbender Symposiumの参加報告

田口勇輝（広島市安佐動物公園）

2015年6月14～17日にアメリカのミズーリ州でおこなわれた「第7回アメリカオオサンショウウオ・シンポジウムThe 7th Hellbender Symposium」に参加してきた。このシンポジウムは、アメリカで2年に1度おこなわれているもので、関係者だけが参加する会議だ。関係者とは、主に、アメリカオオサンショウウオ（以下、ヘルペンダー）を調査している大学の研究者や、ヘルペンダーを飼育している動物園関係者（キーパーやキュレーター）、野生生物管理課などでヘルペンダーに関わっている行政の担当者であり100名を超える参加者があった。本発表では、ヘルペンダーに関する研究事例や飼育下繁殖の現状について、シンポジウムとセントルイス動物園の視察から知れたものを取りまとめる。

シンポジウムは初日に簡単な講演があり、2日目にはセントルイス動物園でのワークショップ、3～4日目に

はプレゼンテーションが行われた。ワークショップでは、10人ほどのチームに分かれて9つのブースを順に回り、ヘルペンダーの飼育・治療方法から簡易な人工巣穴の作り方まで、様々なテーマについて話を聞いた。

プレゼンテーションでは、30題の口頭発表と14題のポスター発表があった。水中に存在している微量なDNAからヘルペンダーの生息を推定するeDNA(environmental DNA)から生息状況を予測する研究や、カエルツボカビ、ラナウィルス、寄生虫、気候変動による影響、遺伝子から個体の移動・分散を調査したもの、水工学を考慮した巣穴構造の考察、チュウゴクオオサンショウウオの現状まで、多岐にわたる発表があった。飼育関係では、生息地に放流した繁殖個体のモニタリング結果や、ふ化技術の向上、体表のバクテリア層、病理によるホルモンの研究などが報告された。



ペンシルベニア州中央部におけるヘルペンダーの環境DNA季節変化

高橋瑞樹 (Bucknell University)

要旨：

生息地に残された遺伝物質（環境DNAまたはeDNA）を分析することにより、個体密度の低い種や、捕獲困難な種の集団を、検出・モニタリングしていく方法が近年確立され、保全上の新しい手法として注目を集めています。環境DNAのサンプリングは時間と労力の面で効率的なだけでなく、生息地を攪乱することなく固体の検出ができるというメリットもあります。オオサンショウウオ科に属するイースタンヘルペンダーはかつては広くアメリカ合衆国東部に分布していましたが、近年、集団の絶滅や減少の報告が相次ぎ、亜種であるオザークヘルペンダーに続いて、アメリカ合衆国魚類野生生物局の絶滅危惧種リストへの記載が検討されています。本研究は、ペンシルベニア州中央部を流れるサスクエハナ川流域のヘルペンダー集団を、環境DNAを用いて検出、モニタリングすることを目的として2014年に行われました。サンプリングは、6月から10月まで毎月、昼間と夜間の2回、8河川13地点からそれぞれ1リットルの水を採集することにより行われました。13のサンプリング地点のうち、4地点においては他の研究者の事前のフィールド調査によりヘルペンダーの集団が存在することが確認されていました。リアルタイムPCRを使ってサンプルから抽出したDNAを分析した結果、以下の知見が得られました。1. フィールド調査で集団の存在が確認されている全ての地点でヘルペンダーの環境DNAが検出された。2. 過去のフィールド調査でヘルペンダーが確認されなかった2つの河川で新たにヘルペンダーの環境DNAが検出された。3. 予想した通り、繁殖期にあたる9月に、環境DNAの濃度が急激に上昇する傾向がみられた。4. 予想に反し、夜間の環境DNA濃度が昼間の環境DNA濃度より高いということはありません。活動報告ではこれらの知見と今後の課題を検討します。

オオサンショウウオの消滅に関する最近の問題点

桑原一司（日本オオサンショウウオの会）

オオサンショウウオの減少については、河川改修による川のコンクリート化、堰堤による移動阻害、豪雨による群れの流失など多様な問題の複合要因であると思われる。その一つに、2012年に山口県岩国市錦町の宇佐川堰堤下で明らかになったオオサンショウウオの痩せ問題がある。これは堰堤下に集中して生息していた一群が、急激な河川環境の変化で餌生物が減少し、生息頭数と餌生物量のバランスが崩れて、死に至るほどに痩せたと考えられている。

同様の問題が島根県や広島県でも生じている。島根県邑南町瑞穂ハンザケ自然館は、定点観察をしている出羽川上田所の堰堤下で2015年5月13日に、痩せがひどいF値4.66、4.77など3頭を一時保護した。上田所堰堤下には20～30頭が常時生息しており、生息群の平均F値は、2010年にはF値8.01であったが、その後2011年5.01、2012年6.36、2013年7.43、2014年5.81、2015年6.41と痩せの状態が続いている。島根県水産技術センターに依頼して調査した結果、カワムツが極端に少ないことが指摘された。

広島県東広島市豊栄町の棕梨川でも痩せ問題が生じている。4区サンダタ堰下に生息する個体群の痩せが目立つため、そのうちのF値4.51、4.83、5.92の3頭を2015年5月22日に堰上の5区に移動させて分散を図った。2015年の調査では、4区サンダタ堰下個体群7頭+（のべ捕獲数19）の平均F値が5.64であるのに対し、その上流部の5区6区の個体群12頭+（のべ捕獲数27）の平均F値は7.29であり、痩せ問題がサンダタ堰下において部分的に生じていることが分かる。

上田所堰堤下では、白骨死体も回収されており、堰堤下で起こる痩せ問題は放置すると死に至る可能性がある。棕梨川のように数十頭しかいない個体群では1個体の亡失の意味は大きく、一頭ごとの対処、管理が必要である。また、川の魚の減少は全国の川で言われていることであり、そのことがオオサンショウウオの減少に繋がっている可能性が高い。今後、カワムツなどの餌生物減少の要因の研究とともに、堰堤下の集合個体のF値にも注意を払う必要がある。

2015年NPO法人伊賀・水と緑の会活動報告

浜田不二子（NPO法人 伊賀・水と緑の会）

1. 三重県伊賀市に生息するオオサンショウウオの特徴とその価値

私たちのフィールドには建設途上の川上ダムの計画があります。

事業者は環境アセスメントを行いダム建設流域に978個体のオオサンショウウオを確認しています。

水没場所だけに限定すると、188個体。すべて日本固有種です。

2. 伊賀市に生息するオオサンショウウオの現状

建設途上の川上ダムの計画がありますが、ダムは川を分断します。

分断された川では、産卵したり幼体が育つことが厳しいと、指導された先生方はおっしゃっています。9月には伊賀のオオサンショウウオのさらなる保全を求めて、三重県議会に請願を出しました。

3. 私たちの活動 紹介

2015年 3月・5月 文化庁長官あての保全要望書提出と要望賛同者の署名提出

2015年 7月23日 夜間観察会（講師 清水善吉先生）

2015年 9月 三重県議会へ請願提出（予定）

9月に伊賀のオオサンショウウオのさらなる保全を求めて、三重県議会に請願を出しました。

簡単な文章ですので読み上げます。

オオサンショウウオは特別天然記念物として国が指定した生物でございます。

国宝と言っても言い過ぎではないオオサンショウウオが、現代では三重県内においては非常に限られた地域に生息する状況となりました。

文化的価値の高いオオサンショウウオでございますから、成育に対して格段の配慮が必要と考えます。

つきましては三重県議会において、より一層の保全に努力してくださるようお願いいたします。

鳥取県南部町におけるオオサンショウウオ関係企画の記録と今後について

桐原健志（南部町立西伯小学校6年）

【目的／はじめに】

南部町は、鳥取県の西にある人口1万人ほどの町です。豊かな里山環境を持っています。僕は、2003年に生まれてこの町で育ちました。僕が生まれて初めて野生のオオサンショウウオ（以下ハンザキ）を見たのは、4才くらいの時、隣の町の日南町多里地区でした。南部町でも見られたらいいなと思っていましたが、ついに、2011年9月に町内でハンザキが保護されて僕の家に来てきました。これが南部町で初めて見たハンザキでした。僕のお母さんは、町の文化財保護審議員をしているので、時々保護のために、ハンザキを預かることがあります。翌年、2012年6月に町内初と思われるハンザキ観察会が開かれました。僕はこれまで南部町で開催されたハンザキ関係の企画にほとんど参加してきました。そこで、2012年から2015年に、南部町で行われたハンザキイベントについてまとめ、どんな人が参加して、どんな生き物が見つかったかを調べてみたいと思い、この調査をすることにしました。

【方法／調べ方】

- (1) イベントの開催報告を出しているブログサイト「サトノテ・ブログ」と「南部町のK原さん」の関係記事を閲覧してデータを確認しました。
- (2) 南部町の「南さいはく地域振興協議会」に過去の企画について問い合わせました。
- (3) 南部町教育委員会の方にお話しを聞きました。

【結果】

- (1) オオサンショウウオ関係の自然体験企画：9回開催。
- (2) オオサンショウウオ関係の行事：3回開催。
- (3) 自然体験企画の参加者の総数：252人。
- (4) 一般参加者：164人（97.6%）、町内の参加者：4人（2.4%）。
- (5) 観察会を開催した水系で確認された水棲生物の数：25種。

【考察／まとめ】

3年間で9回開催したハンザキ企画で、町外の参加者の方は1家族4名様だけでした。しかも、そのご家族は、もともと米子に住んでいた方なので、完全な地元の方の参加は実質ゼロとなり、町外の方の関心の高さと、町内の方の関心の低さが数字に現れました。今後、町内在住の方やハンザキ生息地に住んでいる方を対象とした企画も増やしたほうが良いと強く思いました。

飼育下におけるオオサンショウウオ3世連続繁殖について

伊東明洋（瑞穂ハンザケ自然館）

瑞穂ハンザケ自然館では、2013年9月18日、展示水槽内にある人工巣穴でオオサンショウウオの産卵に成功した。国内で飼育下産卵の成功は広島市安佐動物公園に続く2施設目となった。繁殖の取り組みの本格始動は、2011年の性別判定からだった。安佐動物公園から譲り受けた10個体のうち生存していた5個体（飼育下2世）。内視鏡性別判定の結果、オス2頭、メス3頭と繁殖にはバランスの良い状態と判明した。しかしこの年、既存の産卵用巣穴1室では産卵には至らなかった。その後安佐動物公園へ産卵環境を見学に行き、展示水槽の検証を行った。まず、水槽全体の水位を75cmから55cmに下げ、産卵用巣穴を1室、生息用巣穴を1室増設した。

【2012年繁殖経過】

2012年6月中旬、個体の行動が活発になり、1頭のオスが増設した産卵用巣穴を占有した。9月7日、既存の産卵用巣穴に移動し産卵床を作ったが産卵には至らなかった。しかしこの年、占有オス（ヌシ）が育った。

【2013年繁殖経過】

2013年2～5月、個体の異常行動？昨年のヌシが他の個体へ異常な威嚇を起こしたため、その個体を別水槽に隔離した。その後もう1頭のオスが産卵用巣穴を占有したが、またメス3頭への威嚇が続く、このオスも別水槽に隔離した。水槽内はメス3頭状態となった。8月10日、自然界のオオサンショウウオが産卵巣穴を占有する日に合わせ、メス3頭のいる水槽に2012年のヌシを入れ、9月4日産卵行動を誘発させるためもう1頭のオスを入れた。2週間後の9月18日産卵成功。10月23日ふ化を確認、飼育下3世の誕生となった。

【2014年繁殖経過】

2013年は試行錯誤の結果での繁殖成功だったが、この年の成功事例とおりに行った。

- 1：5月25日～8月7日まで展示水槽内メス3頭の状態。
- 2：7月18日産卵用巣穴に砂30キロ入れ整備。
- 3：8月8日1頭のオスを導入。（2013年のヌシとは別の個体）
- 4：8月30日もう1頭のオスを導入し、巣穴の奪い合いをさせた。

以上の行動環境を作った結果、9月7日産卵成功、10月9日ふ化に成功した。2013、2014年の結果から、2世個体は自然界の学習経験がない。だから、こちらが①自然に近い生息環境を作ってやること。②季節に応じた行動環境を作ってやることではないかと考えている。

動物園飼育下オオサンショウウオ (*Andrias japonicus*) の
健康管理に主眼を置いた寄生虫検査

田中祥菜¹, 田口勇輝², 野々上 範之², 野田亜矢子², 浅川満彦¹

(¹酪農学園大感染・病理, ²広島市安佐動物園)

広島市安佐動物公園のオオサンショウウオ *Andrias japonicus* の保護増殖施設で谷水と井戸水を利用して飼育をしている個体の健康管理の一環として寄生虫検査を行った。131個体分の10%ホルマリン液(一部冷凍)に固定・保存されていた繁殖個体と野生由来の臓器・消化管標本を用いた。検査では保存液を含め、全ての標本について実体顕微鏡を用い精査された。得られた蠕虫は70%エタノール液で再固定・保存後、線虫類に関してはラクト・フェノール液で透徹し、形態観察・種同定を行った。また、吸虫は酢酸カーミンにて染色を行った。これに加え糞便(10検体)についても検査を実施した。この検査はシヨ糖遠心浮遊法と渡辺沈殿法を併用した。その結果、1検体分の保存ホルマリン液内より Kathliniidae 科 Kathliniinae 亜科線虫 *Megalobatrachonema nipponicum*, 8検体の消化管漿膜面から顎虫科 Gnathostomatidae(特に Spiroxyinae 亜科 *Spiroxya* 属)と目される被囊幼線虫, 1検体の小腸より Liolopidae 科吸虫類 *Liolope copulans* および毛細頭線虫科 *Schulmanella* (*Amphibiocapillaria* 亜属) か *Paracapillaria* 属のある種が得られた。糞便検査では毛細線虫卵, 原虫 *Eimeria* 属オーシストと *Balantidium* 属のある種と考えられる栄養体が検出された。これら毛細頭線虫類を除く線虫および吸虫については野生個体や展示個体では既報告種であったが、将来的な野生への再導入の可能性を考慮した場合、寄生虫症の防疫上有益な情報となった。また今回、オオサンショウウオからコキシジウム類が見つかったのは初報告となるので、その病原性についての検討の必要性が示唆された。近年、近畿地方にある複数の河川で、本種とチュウゴクオオサンショウウオ *A. davidianus* の交雑問題が明らかにされてきている。今後は外来性寄生虫の有無についても検証をする必要性もあろう。なお、本研究内容は第21回野生動物医学会江別大会で口頭発表した内容を一部改変、追加したものである。

大阪府能勢町天王におけるオオサンショウウオの生息調査

栗栖和道（天王プロジェクト）

○天王川について

大阪府の最北端の能勢町天王には、北摂山地最高峰の深山（みやま）（標高790.6m）を源にその中心を貫くように流れる清流、天王川があります。川の長さは約3.8キロで、兵庫県に流れ出て「羽束川」となり、途中、篠山市の龍坊温泉、山間の後川をぬけ、三田市、宝塚市、神戸市を流れ武庫川に流入しています。

○天王川のオオサンショウウオ調査

本川のオオサンショウウオ生息調査は自然保護団体などや河川工事にともない能勢町などの行政によりおこなわれてきました。最近では平成12年度から18年度にかけて大阪府が実施したほ場整備に併せて行う河川工事に際して生息調査がおこなわれ、併せて大阪府職員が講師となって地域の子供たちのみならず農家や住民の方々などに参加していただいてオオサンショウウオに関する出張教室なども行われました。

しかし、平成18年度事業完了したためこれらの活動を継続することは困難になりましたが、平成22年度ころまで大阪府職員の有志により年1回程度の生息調査だけは続けられていました。

○天王プロジェクト オオサンショウウオ部会

天王は山間部の他の地区同様、高齢化、人口減少が著しく将来にあまり希望の持てない状況で、これを憂い、地元とボランティアが集まって、平成21年度より、本地区の活性化のために都市との交流促進に取り組む「天王プロジェクト」が始まりました。この活動はまちの人に参加を募って、ムラの人と一緒に農作業体験したり、天王の自然に触れる遊びをしたり、お祭りや運動会などムラの行事に参加するなどの活動を行っています。

その活動の一環としてこの地区の貴重な財産であるオオサンショウウオをもっと関心を持とうという趣旨で平成23年度にオオサンショウウオ部会の活動を始めました。年1回程度のペースで生息調査を行い、その結果をネットなどで紹介しています。

これまでの調査結果は、平成23年度 5個体（うち新規1個体）、平成24年度 2個体（うち新規2個体）、平成25年度 1個体（うち新規0個体）、平成26年度 実施できず、でした。

○今後の目標

現在の活動は本プロジェクトのスタッフとその関係者だけの生息調査のみですが、ゆくゆくは一般の方の参加を募って観察会などを開けるようにしたいと思っています。また、調査結果を検討して生息環境をよりよくするための提案ができるようになればと考えています。

そして、この活動を通じて、オオサンショウウオ保護の輪が広がるとともに、この地区の自然の素晴らしさを広く知ってもらいたいと願っています。

○最後に

初歩的な我々の活動を優しく見守り、様々なご指導、ご支援を賜っております日本ハンザキ研究所の橋本武良所長様と、法律に関する手続きなどに対するご指導などをいただいております大阪府教育委員会及び能勢町教育委員会の関係課の皆様に対して、心より感謝申し上げます。



大分県宇佐市におけるオオサンショウウオの取り組みについて

竹村雄太・森本星史（大分県宇佐市教育委員会）

I はじめに

宇佐市では近年、天然記念物オオサンショウウオ生息地の指定地内の河川において出水やこれに伴う災害復旧工事により河川環境に変化がみられ、指定地外の駅館川水系中～下流域では保護事例が多発するなど詳細な生息状況を把握する必要性があったため、広範な調査を実施した。

調査の結果、市内に生息するオオサンショウウオ個体群が安定的に維持されていると断定できず、DNA 分析では本市に生息する個体群間の遺伝的多様性が低い可能性が指摘されている。

このような状況を受け、宇佐市教育委員会はオオサンショウウオとその生息地について将来へと適切に保存し、継承していくために文化庁の国庫補助事業として、保存管理計画策定事業を平成 26 年度から平成 27 年度にかけて実施している。

今回は本事業内で実施した調査で得られた成果について報告する。

II 調査の方法

1. 調査範囲

オオサンショウウオ生息地指定地内の岡川・余川をはじめとした駅館川水系上流域の河川を主体として近年、保護事例が相次いでいる同水系の中～下流域も調査範囲とした。

2. 調査方法

調査の方法は、①生態（幼生・幼体・成体、産卵状況、分布状況）、②生息環境（堰堤、自然地形、植生、水生動物、水質）、③DNA 分析の項目による。

III 調査の成果

1. 生態

調査の結果、平成 12 年度から開始しているマイクロチップによる標識登録実績は 322 個体となった。その分布は駅館川水系上流域の一部の河川（岡川・余川）に集中するものの生息地指定地外

の同水系中～下流域においても今回の調査で確認することができた。中～下流域で捕獲・保護された個体は豊富な餌資源量が背景にあると考えられ、大型の個体が多い。

これまでの計測個体から得られたデータを分析した結果、全長・体重と河口から捕獲地点までの距離に相関性が認められている。

自然繁殖については従来、岡川では集落上限より標高の高い渓流区間（河川形態 Aa 型）でのみ確認されており、これは岡川個体群の特殊性として指摘されることもあったため、今回、初めて岡川下流区間（河川形態 Aa・Bb 移行型）で幼生を確認することができた意義は大きいと判断している。幼生は離散前と考えられ繁殖巣穴付近で発見した。今後は岡川以外の他河川でも自然繁殖の痕跡が認識される可能性が期待される。

オオサンショウウオの食性については、捕食中の個体を偶然発見した事例のほか計測中に吐き出した事例から、今のところタカハヤやドンコカエル、ミミズを捕食していることが明らかになっている。

なお、今年度は幼生の生育環境を適切な方法で保存管理するために幼生の胃の内容物調査を予定しており、幼生の食性を把握したいと考えている。現状変更許可のもと実施する。

このほか、こうした水系全域を対象とした調査の蓄積の結果、オオサンショウウオの移動についての知見も得られるようになった。

IV 今後の展開

今回の調査で得られた成果を現在作成中のオオサンショウウオとその生息地についての保存管理計画書に反映し、本市の個体群とその生息地を将来へ引き継ぐために適切な保存管理を行う。

また、事業終了後も調査（記号・再捕獲法）を継続的に実施し、データの蓄積に努めたい。

高知県のオオサンショウウオについて

吉川貴臣¹⁾、渡部 孝¹⁾、笠木 靖²⁾、坂本美々²⁾

(¹⁾ わんぱくこうちアニマルランド, ²⁾ 高知県立のいち動物公園)

高知県では、2014年より、高知県レッドデータブック〔動物編〕高知県の絶滅のおそれのある野生動物(2002年)の改訂作業中である。改訂版発行にともない、私たちは両生類・爬虫類分科会の委員および調査員として、現在、県内の生息調査を実施している。

オオサンショウウオについては、改訂作業以前の2002年より、県内の生息調査を継続しており、発見した個体は、計測・マイクロチップ装着、最近ではDNA解析をおこなっている。今回、これまでの調査内容について報告する。

山口県宇佐川のオオサンショウウオ（6） 「放流5個体のモニタリング」

野村舞穂・坪本 萌・冷泉きらら（高川学園中学・高等学校、科学部 高校2年）

荒川祥次・藤井康平・吉中悠士郎（高校1年）、鎌田啓佑（中学3年）

錦川水系宇佐川の宇佐川堰堤直下において、2014年7月23日㈪、『緊急保護オオサンショウウオの第1回放流事業』が行われた。この5頭は2012年に同地点で衰弱死寸前のところで岩国市教育委員会が緊急保護した23頭のうちの優良個体である。その直後から約1年間、放流した5個体のモニタリング（追跡調査）を行ったところ、各個体の粗脂肪量の変化から、本生息地における衰弱原因を知る貴重な知見が得られたので報告する。

【方法】夜間に生息河川を踏査しながらタモ網またはトラップ（スプリングカゴKG105）で捕獲し、マイクロチップにより本個体であることを識別し、健康状態と計測を行い過去の記録と比較した。2014年8月17日から2015年8月21日までに13回の調査を行った。

【結果】放流1ヶ月後に、目視でNo.392145000036211と思われる黒色個体を確認したが、約3か月間はいずれの個体も姿を消していた。また、同エリアにおいて繁殖行動は確認していない。しかし、今年の春4月からは4個体の出現が確認できるようになった。これに対し前年10月に唯一確認した個体であるNo.392145000028189は姿を消したまま、いまだ確認できていない。

表1 放流7/4後のモニタリング個体の粗脂肪量

年 月 日	145000028189	145000028189	145000031720	145000021850	145000004788	注 記
2014. 7. 4	7.48	6.75	7.28	7.66	7.40	放流時（相対質量）
2014. 8. 17						堰堤上約100m高水位付近で捕獲
2014. 8. 22						再捕獲2頭
2014. 9. 6						再捕獲2頭
2014. 10. 4		8.1				再捕獲2頭、数頭1頭
2014. 11. 14						再捕獲1頭
2014. 12. 28						再捕獲2頭
2014. 1. 8						再捕獲1頭
2015. 4. 22	8.5					再捕獲4頭
2015. 4. 22				6.8		再捕獲1頭
2015. 6. 20	8.2		6.1			再捕獲3頭
2015. 6. 21					8.8	再捕獲3頭
2015. 6. 22	9.9					再捕獲2頭
2015. 8. 21	5.84		5.88			再捕獲4頭

いずれの個体も姿を消していた。また、同エリアにおいて繁殖行動は確認していない。しかし、今年の春4月からは4個体の出現が確認できるようになった。これに対し前年10月に唯一確認した個体であるNo.392145000028189は姿を消したまま、いまだ確認できていない。

【考察】5個体の粗脂肪量を経時的に比較したところ、直近の8月21日にかけていずれの個体も減少している。これは全長に対していずれも痩せてきたことを意味している。最近では背骨が目立つようになった。



図1 粗脂肪量の変化

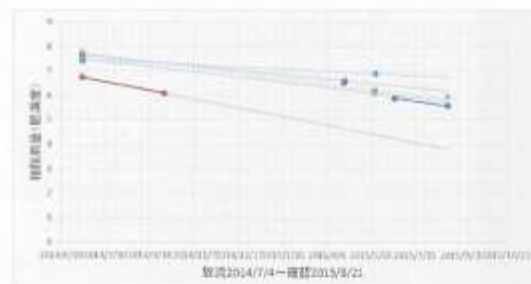


図2 散布図（直線とマーカー）

散布図の傾きは茶色個体のみが異なっている。放流後の早期に出現し消えているが、最近では4以下が推定される。この個体のみ放流時に7以下であり、自然環境への適応に消費する体力を考慮すると7以上が目安と思われる。2007年から現在に至る堰堤直下の生物相・植生・堆積した砂礫の遷移現象、及び飼育時の採餌量・増加した粗脂肪量と比較すると、個体に必要な栄養量を推測することができた。



No.392145000036211 (2015/8/21, 9:47)

岩国市宇佐川におけるオオサンショウウオの保護の取り組みについて

広兼 健（岩国市教育委員会）

1 はじめに

山口県岩国市を流れる2級河川錦川では、オオサンショウウオの生息及び繁殖行動が確認されており、現在のところ本州最西端の生息地として知られている。錦川のうち、特に支流の宇佐川は、近年の研究から主要な生息地とみられている。岩国市教育委員会は、平成26年度に「岩国市オオサンショウウオ調査研究委員会」を設置し、今年度から3ヵ年の計画で、錦川のオオサンショウウオ生息状況調査事業に着手している。また、宇佐川に昭和53年に設置された宇佐川堰堤では、山口県岩国土木建築事務所が今年10月から堰堤内の土砂の浚渫に着手する予定であり、これに先立って工事予定地内のオオサンショウウオの捕獲及び一時保護が既に始まっている。

2 錦川のオオサンショウウオ生息状況調査について

今年度は、錦川のうち、最も多くの生息が確認されている宇佐川流域を調査対象とし、5月から宇佐川の支流の生息調査を開始した。10名程度の調査チームで河川に入り、夜間に目視での調査を行っている。

また、オオサンショウウオの目撃情報が最も多く寄せられている、宇佐川堰堤から下流約8kmの宇佐川本流部分を対象に、9月以降、生息確認調査を計画している。

3 宇佐川堰堤の浚渫に伴う一時保護について
一時保護施設の完成

今年7月、山口県岩国土木建築事務所によって岩国市錦町広瀬に一時保護施設が完成した。今年10月から開始される宇佐川堰堤の浚渫工事に伴い、工事区域内のオオサンショウウオを保護する目的で、4年間の工事期間中、この施設で飼育を行う予定である。



宇佐川堰堤内のオオサンショウウオの一時捕獲

今年7月から、浚渫工事区域内でオオサンショウウオの捕獲を開始し、8月25日現在、生体14個体、亜成体1個体、幼体27個体の計42個体が一時保護施設で保護・飼育されている。

東広島市棕梨川におけるオオサンショウウオ幼生の離散
～他水系への流出について～

清水則雄・山崎大海・増田尚哉・中村虎之介・神林千晶・藤本将也（広島大学総合博物館）・
上田 進・光宗勝典・三澤はじめ・実藤里奈・土岡健太・佐藤捷徳・岡崎萬治・高松哲男（東広島
オオサンショウウオの会）・伊藤 誠（東広島市教育委員会）・桑原一司（日本オオサンショウ
ウオの会）

オオサンショウウオの繁殖行動や成体の分布・生態についてはこれまで多くの報告
が成されている。しかし、幼生に関する報告は少なく特に野外における幼生の孵化後
の動態については情報が極めて少ない。

我々の調査チームは、2013年1月から5月にかけて東広島市豊栄町沼田川水系棕梨
川におけるオオサンショウウオ幼生の離散調査にてのべ744個体の幼生を確認し、幼
生が予想以上に緩やかに下流へ離散することを確認している（日本オオサンショウウ
オの会2013年大会要旨集）。2013年の報告では、離散幼生が取水用の堰堤から江の川
水系に分水している用水路に流出している可能性が示唆されたため、本年度の調査で
は簡易トラップを用いてその後の幼生の追跡を行った。

調査は広島県東広島市棕梨川上流部の向谷地区において2015年1月19日から5月
18日までの約4ヶ月間に、産卵巣穴の上・下流域それぞれ約200m、計400mの区間、
さらにその下流側約520mの区間合わせて約920mに存在する落ち葉溜まり等の幼生生
息場所を定期的に玉網ですくいその個体数・全長・体重・発生段階を確認する調査を
実施した。全5回の調査の結果、66個体、182個体、196個体、113個体、46個体、のべ
603個体を確認できた。また、他水系への流路に設置した簡易トラップには、2ヶ月で
46個体の幼生が確認された。本発表では、幼生の離散動向と幼生の減少に関わる具体
例として、他水系等への流出の可能性を報告する。



鳥取県日南町大宮地区におけるオオサンショウウオの生息状況

吉田博一（日南町役場住民課）

はじめに

日南町は、鳥取県の西南部に位置し、島根県、広島県、岡山県と県境を接する町である。日南町大宮地区流れる4つの河川（荒田川、宝谷川、道ノ子川、印賀川）におけるオオサンショウウオの生息状況について報告する。同地区は標高約400mであるが、傾斜が緩やかで川沿いのほとんどの土地が水田として利用されているため、調査対象河川は、護岸、取水堰、砂防堰堤などの河川構造物が多く整備されている。

調査方法

期間 2011.8～2014.10

方法 ①夜間に捕獲調査を行った。

②体重、全長、体長、体の特徴を記録した。

③捕獲個体にマイクロチップを挿入した。

④GPSで捕獲位置を記録した。

調査結果

調査区間で166個体のオオサンショウウオを登録し、このうち85個体を再捕獲した。再捕獲を含めた延べ捕獲回数は355回だった。166個体の全長は 69.2 ± 14.2 cm (Mean $\pm$ SD)で、最も大きい個体は102cm、最も小さい個体は14cmだった。同様に、体重は 2761.7 ± 1558.1 g (Mean $\pm$ SD)で、最も重い個体は8,450g、最も軽い個体は150gだった。小さい個体が少なく、10cm級の幼体が1個体、30cm級の個体が1個体発見されただけだった。なお、複数回捕獲した個体については、全長と体重は最も新しい記録を用いた。

捕獲した地点からほとんど移動しない個体がいる一方で、上流方向・下流方向を含めて延べ約6km移動した個体があった。再捕獲した個体のうち、ほとんどの個体は、上流方向・下流方向を含めて200m程度の移動だった。本調査でも、本種の移動が多数の短距離移動と少数の長距離移動で構成されていることが確認できた。

おかやまオオサンショウウオの会湯原地区の活動報告

浜子尊行・伴野良子（岡山オオサンショウウオの会事務局）

岡山県真庭市湯原は、はんざき大明神やはんざき祭りなどの文化をもつ「はんざきの里」である。かつては、石川千代松博士によるはんざき研究の発祥の地として知られ、町内にはオオサンショウウオ保護センターをもつ。しかし、近年はこの地区のオオサンショウウオに関する調査研究が途絶えており、地域住民はオオサンショウウオの実態と離れて「はんざき祭り」が実施されていた。

そこで、おかやまオオサンショウウオの会は、生息調査により当地区のオオサンショウウオの状況を把握し、結果を住民と共有することにより当地区に伝わるはんざき文化を強化し、もってオオサンショウウオの保全を図ることし、2013年から調査活動と普及活動を開始した。その概要は次のとおりである。

1 湯原地区におけるオオサンショウウオの生息状況

- ① 田羽根川中上流部：3回の調査により成体9頭と幼生1頭を確認
- ② 田羽根川温泉街地区：3回の調査によりのべ14頭の成体と幼体を確認
- ③ 旭川温泉街地区：2回の調査により中央部では0頭、下流部で成体6頭と1卵塊を確認
- ④ 旭川鉄山川合流部：1回の調査により成体4頭を確認

2 住民等への普及・組織化活動

- ① 真庭市長との懇談会：2014年10月17日、オオサンショウウオを活用した湯原の活性化を提案
- ② おかやまオオサンショウウオの会の事務局設置：湯原観光協内に事務局を置く
- ③ 地域住民への働きかけ：2015年6月16日 はんざき講習会 参加者21名、6月17日 体験調査会 参加者13名、8月18日 田羽根川調査観察会 参加者11名
- ④ 観光客への働きかけ：2015年8月8日「はんざき祭り」に展示解説ブースを出展、オオサンショウウオセンターから成体1頭を出展。約1300人が入場

温泉街での多数のオオサンショウウオの発見とはんざき祭りのオオサンショウウオ展示の人気は住民にとって新鮮な情報となった。これらの取り組みを通じて、湯原地域に10名規模の調査団を発足させ、今後人数を増やしていく予定。オオサンショウウオへの関心を高め、地域住民がオオサンショウウオの実態を観光客やマスコミに発信できるようにしていきたい。

兵庫県市川で観測されたオオサンショウウオの10月産卵

岡田 純・橋本武良（NPO 法人日本ハンザキ研究所）

これまでオオサンショウウオの産卵確認ができなかった兵庫県市川の黒川ダム直下において2014年10月25日に産卵が初確認された（図1）。これは我々の知る限りオオサンショウウオの産卵日として最も遅い記録である（10月産卵は自然下で初確認）。これより約3～5 km 下流にあるハンザキ研～簾野では例年9月10日頃に産卵しており（2014年は9月8日）、黒川ダム直下では産卵が約1箇月半も遅延している。ダム直下の巣穴付近はダムからの冷温水放流により夏期に水温が低く（7～8月上旬まで水温約10～12℃）、高水温のピーク（約20℃）が10月であり（下流の簾野では8月がピーク、図2）、ダムから冷温水放流による水温変動がオオサンショウウオの産卵（産卵の遅延）に影響を与えていると考えられる。ダムの冷温水放流の水生生物に対する影響はこれまで十分な議論がされておらず、今後の調査が必要である。



図1 黒川ダム直下の産卵巣穴入り口で発見された卵（2014.10.25）

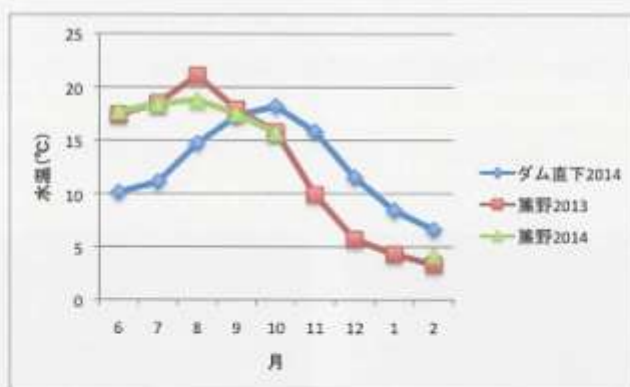


図2 黒川ダム直下（巣穴10付近）と簾野（人工巣穴付近）における水温変化（各月の平均値、黒川ダム直下は2014年度のみ、簾野の2014年11月～2015年1月のデータは欠）

京都・嵐山周辺における日本産オオサンショウウオの生息状況

見澤康充（建設環境研究所）・松井正文・西川完途（京大院・人間・環境）
福富雅哉（京都市文化財保護課）

●桂川中流域の嵐山周辺に多い日本産オオサンショウウオ

京都市内を流れる鴨川水系及び桂川水系では、外来種チュウゴクオオサンショウウオが侵入して在来種のオオサンショウウオとの交雑化が進行していることが知られています。平成23～26年度の調査（京都市が市内の鴨川水系、桂川水系、由良川水系で実施）では、鴨川水系で捕獲された個体（244）の98%が外来種または交雑種、桂川水系で捕獲された個体（196）の39%が交雑種でした。この結果は、鴨川水系で特別天然記念物である在来種が危機的な状況に陥っていることを示しています。

一方、桂川水系では上流域の上桂川における捕獲個体の58%が交雑種であるのに対し、下流域の桂川では交雑種の割合は8%と低く、中でも中流域の嵐山周辺（桂川-淀川合流点から約18km上流）で捕獲された31個体はすべてが在来種でした。本来の生息域（産卵や幼生の生活が可能な溪流環境）から遠く離れた、河川規模の大きい嵐山周辺に在来種が多く生息していることは、桂川に生息するオオサンショウウオを保全する上で注目すべきことです。

●嵐山周辺における日本産オオサンショウウオの生息状況

嵐山周辺に生息するオオサンショウウオは大型個体（全長70cm以上）が多く、上流域から流下した個体が繁殖することなく生活しているものと考えられています。これらの多くはコンクリート護岸の隙間や堰堤直下のコンクリートブロックの隙間などの、老朽化が進んだ人工構造物を隠れ家として利用しているようですが、実際にどのような生活を送っているのか詳しいことはわかっていません。そこで、桂川に生息する在来種を保全する上で重要な、

- ・嵐山周辺にはいったいどれくらいの数のオオサンショウウオが生息しているのか？
- ・嵐山周辺のオオサンショウウオはどのような場所でどのように生活しているのか？
- ・上流または下流に生息する交雑種は本当に嵐山周辺へ侵入していないのか？

について明らかにするため、嵐山周辺でオオサンショウウオの生息状況についての調査を開始することにしました。



オオサンショウウオが潜んでいた護岸の隙間



在来種のオオサンショウウオ

京都市産のオオサンショウウオの現状
ー 2014年秋から2015年夏までのまとめー

西川完途・松井正文・江頭幸士郎・吉川夏彦

京都市と文化庁による交雑オオサンショウウオ問題の対策事業について、昨年秋から現在までの調査結果を報告する。これまで調査された水系の継続調査では、昨年までと同様またはそれ以上の割合で交雑個体が確認された。特に鴨川水系の賀茂川と、桂川水系の寺谷川では、日本のオオサンショウウオは全く捕獲されることがなかった。

両河川では過去に少ないながら日本のオオサンショウウオも確認されているので、交雑個体が更に優勢となってきたり、日本のオオサンショウウオが絶滅の危機に瀕している現状が明らかとなった。しかしながら、これまでに2個体のみ交雑個体が確認されている桂川水系の清滝川では、その後の調査でも交雑個体は確認されていないので、ある程度駆除の効果が出てきていると期待される。このことは、交雑個体がまだ少ない河川では駆除の効果が出やすいことを示していると考えられる。今年初めて調査した安曇川水系（琵琶湖流入河川）の百井川ではオオサンショウウオを発見することができなかったが、地元の方からの生息情報はあるので、今後も調査を継続する予定である。今後の調査効率を上げるために、野外でできる簡易遺伝子鑑定キットの開発に現在着手しており、その状況についても簡単に報告する。

奈良県宇陀土木事務所におけるオオサンショウウオ保全の取り組み

浅井健太（奈良県宇陀土木事務所工務課）

奈良県宇陀土木事務所においては、平成24年3月に「特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針2012（構成：三重県教育委員会・奈良県教育委員会）」が策定された後、オオサンショウウオの保全の取り組みが始まった。

平成23年の台風12号で宇陀土木事務所管内の河川が被災したため、平成24年度災害復旧工事実施にあたり当該保護管理指針に基づいて、当事務所、奈良県文化財保存課、宇陀市教育委員会、オオサンショウウオアドバイザー（清水先生）が連携し、オオサンショウウオ保全活動を本格的に実施した。

災害復旧工事に先立ち、工事着手前の「保護調査」を実施した結果、宇陀市の室生川で5匹の幼体を含む19匹のオオサンショウウオが確認された。その結果を踏まえ、関係機関と協議を行い、復旧する護岸に身を隠し繁殖が出来るように直径20cmの人工巣穴の設置や、遡上を妨げないように堰にスロープを設置した。

平成25年度以降は、毎年5月頃にオオサンショウウオ保護調整会議を開催し、必要に応じて生息調査・保護調査を実施してオオサンショウウオの保全に取り組んでいる。平成25年度からの調査結果として、オオサンショウウオの個体は発見されなかったが、寄せ石による生息環境の保全に努めている。

また、オオサンショウウオ保全についての啓発運動としては、大宇陀高校とコラボして出来たマスコット「うだのサンちゃん」を作りPRに努めるとともに、当事務所ロビーで一時保護中のオオサンショウウオを展示、地域住民に保護活動について理解を求めている。



奈良県内の大和川水系、紀ノ川水系における
オオサンショウウオの生息分布調査について

中谷康弘・島田正吾・佐野大・井上直樹・松本清二（橿原市昆虫館）

オオサンショウウオは、国の特別天然記念物であり、国のRDBでは絶滅危惧種Ⅱ種、奈良県では注目種に指定されている。2012年8月に奈良県御所市の曾我川支流で、体長113 cm、体重13.5 kgの1個体が保護され、現在橿原市昆虫館で飼育展示されている。1 mを超える大型両生類であるため、来館者や一般市民の注目度が高く、環境教育のモデル種としても大変有効である。奈良県では、宇陀市の木津川水系の宇陀川での生息が知られているが、それ以外の地域の調査研究はほとんど行われていなかった。そこで、当館では、2012年～2015年の9月までに、奈良県内の大和川水系、紀ノ川水系吉野川、熊野川水系で現地の生息調査及び聞き取り調査を行ったので報告する。なお、本調査研究の一部はタカラ・ハーモニクファンドの研究助成を利用した。

奈良県宇陀市におけるオオサンショウウオ調査等の取り組みについて

薄木康裕・柳澤一宏（宇陀市教育委員会）

1. 従前の認識

宇陀市内のいくつかの河川には、オオサンショウウオが生息していることは、以前から確認していたが、その河川ごとの詳細は明らかでなかった。一方、三重県教育委員会による生息調査の結果、奈良県側の宇陀川本流にもオオサンショウウオの生息が確認され、三重県側との関係も注意していかなければならないことが明らかとなってきた。

2. 特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針

2002（平成14）年に三重県が策定した『特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針』の改定が計画され、その改定作業に奈良県教育委員会等関係機関とともに2010（平成22）年から参加することとなった。

2012年3月には三重県教育委員会・奈良県教育委員会の連名で『特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針2012』が策定され、奈良県内においてもこの指針に基づいてオオサンショウウオの保護対策等を講じることとなった。

2012（平成24）年10月から室生川の河川工事に伴う保護調査等に参加し、オオサンショウウオが発見された場合は、市施設内において一時保護を行い、DNA鑑定後、もとの保護河川に放流するといった作業を重ねている。また、一時保護個体が多数、一時飼育が長期に及ぶ場合は、日本サンショウウオセンターに一時保護を依頼し、その対応にあたっている。

3. 周知活動

市内に「特別天然記念物オオサンショウウオ」が生息していることを市民に広く周知するため、広報への登載、ケーブルテレビでの放送、展示などを行い、あわせて地域住民からも情報提供を求めているところである。

2013（平成25）年7月に市役所内でオオサンショウウオの展示を2回実施した。見学に訪れたある小学生は、のちに作文「わたしの将来のゆめ」のなかで、市内にオオサンショウウオが生息していることに驚き、これから10年後、20年後もオオサンショウウオが繁殖しやすい豊かな川であってほしいし、宇陀市の「人間と自然の共生」の力になれる獣医師になりたいと記している。

2014（平成26）年6月～7月にも市役所内でオオサンショウウオの展示（3回）を行うとともに8月に親子夜間観察会を開催した。

2015（平成27）年度にも親子夜間観察会を開催し、約40名の参加があった。

4. 国庫補助事業での調査

室生ダムより下流の宇陀川本流、室生川、大野川、深谷川、滝谷川、阿清水川、内牧川、深谷川などでオオサンショウウオの生息が確認されている。

土木工事等の開発行為に伴う保護調査のみでは、市内に生息するオオサンショウウオの状況が明らかにできないため、計画的な保護調査（分布調査・生息生育調査）を実施し、オオサンショウウオの保護対策を講じることが必要となってきた。また、最近では、市内でも交雑種を確認しており、その生息域の把握、一時保護等が緊急課題となってきた。

このような状況であるため、国庫補助事業で特別天然記念物オオサンショウウオの保護調査を今年度から実施している。

<附載>

室生川 オオサンショウウオ親子夜間観察会に参加して

2015年 観察会参加者

以前から展示されているオオサンショウウオは知っていましたが、自分で見つけてみたいと思い子供と観察会に参加しました。親子共々、夜の川の中を歩くのも初めてのことで、川の流れに足を取られながらも、川に生息しているオオサンショウウオを実際に見ることができ、貴重な体験ができて、楽しかったです。それに、オオサンショウウオが生息できる川が、まだまだ残っていることに嬉しく思いました。

(保護者)

オオサンショウウオは、前足の指が4本、うしろ足の指が5本あるのが面白かった。

川に入ってさがすのが楽しかった。

水がつめたくてきもちよかった。

おもしろかったから、また、らいねんも さんかしたい。

(小学生)

観察会では知らないことをたくさん教えていただきました。びしょぬれになったけれど、オオサンショウウオを見ることができて良かったです。

(小学生)

観察会では子どもと一緒に日頃できない夜の川を歩くということができるので夏休みの楽しい行事のひとつとなっています。

昨年も、今年もマイクロチップが入っていないオオサンショウウオを見つけることができ、また、普段は触ることもできないオオサンショウウオを間近で観察できるので、子ども達も興味をもって先生の話に耳を傾けていました。

親子で参加といっても暗い所を歩くので危険もあるかと思いますが、職員の方々の多大なご苦勞、ご配慮があつて無事に観察会ができるのだと思います。

少しでも子ども達の心の中に宇陀の自然を守っていこうという気持ちが育てば良いなと思っています。

(保護者)

大会のようす



会 場



大 会



ロビー



懇親会



夜間観察会 室尾川



測 定



市指定無形文化財「室生の獅子舞」



名張市郷土資料館（旧錦生小学校）

第 12 回日本オオサンショウウオの会
宇陀大会報告書

発行日 2016 年 3 月 31 日

発行者 日本オオサンショウウオの会
〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川 292
NPO 法人 日本ハンザキ研究所内
<https://www.giantsalamander.net>